

# 「阪神高速 未来へのチャレンジプロジェクト」 第3回助成・事業実施報告書

## 1. 基本事項

団 体 名	特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会		
事 業 名 称	海外にルーツのある子どもたちの日本語の習得支援及び居場所づくり	助成額	50万円
申請事業の概要	この事業は、外国にルーツを持つ子どもたちに対する日本語で学ぶ学習の支援と、学校に馴染めない子どもに対する居場所を確保することで、無理なく日本の学校の授業に馴染んでゆく過程を主に支援するものです。		
申請事業の目的	急増している海外にルーツのある子どもたちが、日本語を話すことができない問題により、学校の授業についていけない、友達ができない等の困難に直面しています。このような社会問題を解決するため、子どもたち（Newcomer）の学習支援・日本語習得の支援を行っています。また同時に子どもたちの居場所を確保し、日本での学校生活に一日でも早く慣れることを願ってサポートを継続しています。子どものサポートのために、保護者の日本語取得の支援も同時に実施しています。		
関連するSDGs目標	 		

## 2. 助成事業の実績・成果等について

助成金を有効に使わせていただき下記のような成果を生むことができましたのでご報告させていただきます。

1. 事業期間：令和6年1月1日～令和6年年12月31日

2. 実施回数

- ・海外にルーツを持つ子どもの日本語習得実施回数 49回（予定48回）102%達成
- ・子どもたちの保護者の日本語習得実施回数 49回（予定48回）102%達成

3. 参加者数

- ・海外にルーツを持つ子どもの延べ参加人数 328人（予定480人）68%達成
- ・子どもたちの保護者の延べ参加人数 259人（予定480人）54%達成
- ・ボランティア延べ参加人数 330人

4. 人材ネットワークの構築

・子どもたちの日本語習得支援のための人材募集を実施しボランティアの登録を増やしています。また、子どもたちの居場所及び日本語習得に寄与するために、ボランティアマニュアルの整備を行いました。

5. 情報収集及び交換ネットワークの構築

・大阪市及び教育委員会事務局との連携を強化し、学校関係者（小学校の校長先生等）との連携を深めることで、子どもたちの受入れ人数を増やす方向で対応している。また、学校の先生及び関係者との連絡を密にし、子どもの進学についても意見交換を行っています。



### 3. 課題分析や今後の発展性

#### 1. 事業の課題分析

##### 1) 現況：

こどもプラザを運営している場所は、東住吉区内にあります。駅に近く比較的外国人の多い生野区、平野区と隣接していますが、通うことが難しいこどもが多いのも確かなことです。このため、必要としているこどもたちのサポートが届かない、という問題も存在しています。

##### 2) 対応：

現在、他の団体と連携しながら水平展開を試みっていますが、資金的な問題もあり困難な状態にあります。しかしながら、今後も引き続き他の団体と連携及び協働しながら互いのノウハウを持ち寄って事業推進を行う予定です。この社会課題について単体での対応ではなく、面（複数の団体と連携して）での対応が可能となれば、広がりのある事業推進につながるものと考えています。また、資金的な裏付けが必要となりますので、当協議会が助成金を有効に活用する資金分配団体となる可能性も模索中です。

#### 2. 今後の発展性

##### 1) こどもプラザのような施設の拠点の立ち上げ

こどもプラザのノウハウを活かし、大阪市内を中心に必要と思われる地域に、他の事業者との連携しながら拠点を立ち上げることが重要となりますが、資金的なこともあり遅々として進まない状況下にあります。このため、他の事業者との連携を強化し、こども支援の輪を広げ、広域的に対応することができる仕組みづくり及び準備を進めてまいります。

##### 2) 地域社会のプラットフォームの基盤構築

地域の商店街、福祉協議会等との連携、行政、防災関係者等と連携することで、在留外国人の日本での生活を支援することができる、と考えます。この様な多面的な連携が多文化共生のプラットフォームの基盤を構築し、地域振興に寄与するものと考えています。

##### 3) こどもたちへの今後の支援について

今後は、小学生を中心に中学生の受入れも実施します。塾代を払えない中学生のこどもたちについても対応することにしていきます。今後はこどもたちの進学についても相談に乗って、進学がスムーズにいような対応を考えてまいります。可能であれば、グローバルな視野に立って、日本が大好きで、世界で活躍できる人材の育成に寄与できればと、目標を高く掲げ支援を継続してまいります。

### 4. 代表者又は担当者からのひとこと

この一年間巣立ってゆくこどもと新たに入ってきたこどもたちと接し、特に感慨深い年でもありました。

巣立って行くこどもたち 2 名は中学を卒業します。日本語が十分でないため、受験の問題もあり高等学校を選ぶのにも一苦労でした。母国に居れば言葉の問題はありませんので、平穏な生活を送っていたかもしれません。こどもたちが、言葉の障壁を懸命に超えようと努力している姿に感銘を受けています。こども一人ひとりの運命に寄り添い、少しでもポジティブな方向に変化することを願って共有しているこの時空間を、私たちスタッフは出会いの神秘性を感じながらも、この一瞬をかけがえないものと感動しながらこどもたちと接しています。

また、こどもの成長が急なことにも改めて驚かされます。休み時間に将棋をマスターしたこどもが、シニアのボランティアとの対戦で勝利した時の笑顔は輝きに満ちています。ややもすると苦しい環境の中で自信を失ってしまうことが多い中で、その環境でも一条の希望の灯を見いだす機会は無限に広がっていることを改めて感じさせられます。

今後も、海外にルーツのあるこどもたちの支援を継続し、こどもたちに寄り添うことで、日本での生活の一助になればと考えています。

今回は、助成金のご支援をいただき感謝いたします。今後とも「未来へのチャレンジプロジェクト」との関係を継続させていただければ幸いです。